

<新発田市立七葉中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区は平場と山間地、またその中間にあたる地形が広がっている。特に豪雨時について土壌雨量がある一定量を超えると、急傾斜地となっている部分を中心に土砂災害が起りやすいことから、土砂災害の警戒指定区域になっているところが多い。 ・国道290号線に沿って、土石流危険区域とともに、崖崩れ（急傾斜地崩壊）危険箇所が入り交じって点在している。
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合、安全に配慮しながら適切に行動してほしい。 ・過去に起きた下越水害、羽越水害の経験や教訓を忘れず、語り継いでほしい。
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における危険を認識し、日常的な備えとともに状況に応じて、的確な判断をして自らの安全確保をするための行動ができる。 ・災害発生時、事後において、命の大切さや相手を思い、進んで他の人々や地域のための安全確保に役立とうとする心を育てる。 ・自然災害発生のメカニズム、地域の災害の歴史、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できる。
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>非常災害時に、自他の安全のため適正な判断をもって、秩序を守り、冷静沈着かつ敏速に行動できる能力を養おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回避難訓練（民家からの延焼を想定した避難訓練） ・第一回地域防災講話（地域の有識者から学ぶ下越水害、羽越水害からの教訓） ・救急方法研修会（心肺蘇生法とAEDの使用法の習得） ・第二回避難訓練（地震を想定した避難訓練） ・第二回地域防災講話（災害派遣に携われた方から学ぶ東日本大震災の教訓）
<p>自校プランの内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての「地域防災教育」の実施 ・年2回の避難訓練（火災・地震） ・心肺蘇生法とAEDの使用法の習得
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害に対する理解 自然災害のメカニズム、災害時の危険、地域の自然環境・災害の要因、県内・地元の過去の災害の歴史、想定外に目を向けられる学習 2 災害対応能力の育成 迅速・的確な避難行動について、日常の備えについて、応急措置の方法、施設設備の点検・搬出・消火 3 災害時の人としてのあり方 生命の大切さ、思いやり、やさしさの大切さ、心の健康について、ボランティア活動への意欲・参加

新発田市立七葉中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年	防災の観点から見た世界の地域		第1回避難訓練(火災)・第1回地域防災講話				大地の成り立ちと変化	第2回避難訓練(地震)・第2回地域防災講話		応急処置の仕方		
第2学年	台風等の災害と防止対策			AEDを含む救急法								台風・洪水のメカニズム
第3学年	防災の歴史と土砂災害										地域災害の歴史と貢献活動	

実践報告書

(1) 事業名	地域の災害の歴史と教訓を学び、命を守る活動
---------	-----------------------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<p>(実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の有識者を招いての講話「昭和41年の下越水害、昭和42年の羽越水害からの教訓を学ぼう」 ・災害派遣に携われた方から学ぶ東日本大震災の教訓 ・救急方法を学ぶ研修会(心肺蘇生法とAEDの使用法の習得) <p>(生徒の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区も河川の決壊や土砂災害で大きな被害があったことを詳しく知ることで、防災の重要性を再認識した。 ・被災場所での「自助、共助、公助」が大きな力になることを学んだ。 ・心肺蘇生法とAEDが大切な命を救う重要性を学んだ。
成果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の防災に対する意識の高揚と知識の獲得 ○自校化につながる防災教育プログラムのデータや実践の蓄積 ▲学校・家庭、地域住民との防災に関する絆の強化 ▲地域の防災マップの活用

実践の様子



第1回地域防災講話



心肺蘇生の講習会



第2回地域防災講話



屋外での心肺蘇生の講習

防災講話

平成30年11月6日

自衛隊新発田地域事務所

講話内容

- 1 災害とは
- 2 自衛隊の災害派遣活動
の状況
- 3 派遣活動から学んだもの
- 4 まとめ

災害ってなに？

- 自然現象や人為的な原因
によって、人命や社会生
活に被害が生じる事態

災害派遣活動の状況



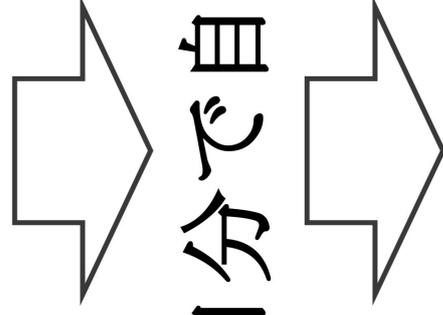
出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」

普段どうすれば

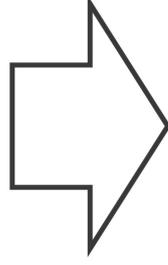
自助（じじよ）



自分で自分を助ける

助かるための準備をしておく

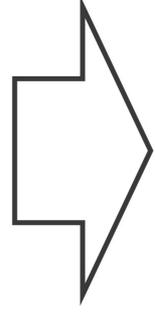
災害が発生したら



- 自分は何をする
- 自分は何が出来る
- 何を持って、どこに避難、
その場所は
- 手に持つそれはどこにあるの
- それは持てるの
- 自分で確認

普段どうすれば

共助（きょうじよ）



近くのみんなで助けあう



助かるための準備をしておく

普段どつすれば

公助（こうじよ）



自衛隊、警察、消防が助ける



すぐには来れない

自助・共助が大切



出典：「部外広報用参考資料」

まとめ



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」



出典：『旅団部外広報用資料』



出典：「第30普通科連隊広報」



出典：「12旅団部外広報用資料」



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」

派遣活動から学んだもの

どんなに苦しくても我慢できる。
(自分より困っている人が必ずいる)

自分、まわり、町、国のそれぞれで
いろいろな準備が大事

どんな立場であっても「自分に出来ること
は何か」を考えてみる。



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」



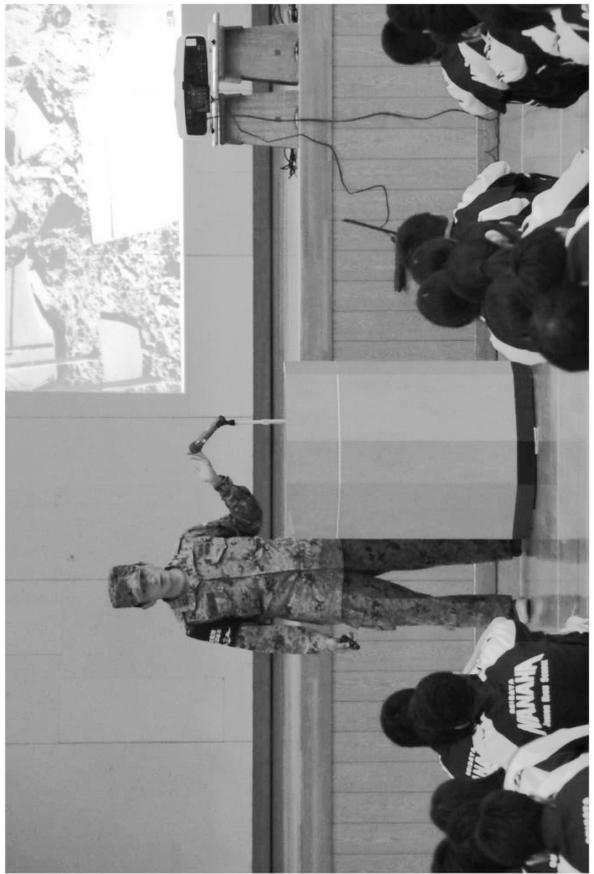
出典：「部外広報用参考資料」



出典：「部外広報用参考資料」

当日の様子







<新発田市立東中学校>

ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

<p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p>	<p>【学校】 学校は、海拔 21 m の小丘高の上に立地している。近傍に、小学校があり災害時は避難所となる。</p> <p>【地域】 新発田市の南東部に位置し、学区は北西から 18.5km、北から南西 10km、総面積 213.59 平方km と広大な地域である。学区には、五十公野地区、米倉・赤谷地区、松浦地区の 3 地区がある。校区は、山間地に当たる所が多く、豪雨時について土壌雨量がある一定量を超えると、急傾斜となっている部分を中心に、土砂災害が起きやすい所がある。赤谷サイクリングロード沿いに、地滑りが起きやすい箇所がある。</p> <p>【生徒の実態】 学区が広いため、遠距離通学の生徒が多い。通学方法は、路線バス、スクールバス、自転車、徒歩と多様である。</p>
<p>保護者・地域・教職員等の願い</p>	<p>○災害が起きた時に、安全に配慮しながら、適切に行動をしてほしい。</p> <p>○自分の身は自分で守る「危険回避能力」を身につけてほしい。</p>
<p>防災教育において目指す児童生徒像</p>	<p>○いつ・どこで・起こるか分からない「災害」が発生した時に、状況に応じた確かな判断をして自らの安全確保をするための行動ができる。</p> <p>○災害発生時、事後において、命の大切さや相手を思いやり、進んで他の人々や地域のための安全確保に役立とうとする心を育てる。</p>
<p>補助交付期間に実施した主な取組</p>	<p>○第 1 回 避難訓練（5 月）地震を想定した避難訓練</p> <p>○第 1 回 防災教室（5 月）身近な場所で災害が起きた時の危険と回避方法</p> <p>○第 2 回 避難訓練（11 月）火事を想定した避難訓練</p> <p>○第 2 回 防災教室（11 月）避難所運営 中学生にできることは？</p> <p>※ 防災教室：ふるさと未来創造堂 中川さんより講演・ワークショップ</p> <p>※ 避難訓練：今年度、防火シャッターを設置に伴い、避難経路を見直した防火シャッターを作動させ、新しい経路で訓練を実施した。</p>
<p>自校プランの内容</p>	<p>○年 2 回の避難訓練（地震・火災）</p> <p>○防災教室の実施（自校で準備したカリキュラムで地震・火災を実施）</p> <p>○新潟県防災教育プログラム （1 年：洪水・土砂災害 2 年：津波・雪災害 3 年：原子力災害）</p>
<p>自校プランを継続するための方策</p>	<p>○新潟県防災教育プログラムや防災教室を年間計画や教育計画の中に位置づけることを検討し、可能なものから実施していく。</p> <p>○外部講師や防災関係機関との連携を密にし、参加・助言を頂く。</p>

新発田市立東中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1学年		第1回 防災教室【地震】 第1回 避難訓練【地震】				新潟県 防災教育 プログラム (洪水)		第2回 避難訓練【火事】 第2回 防災教室【火事】			新潟県 防災教育 プログラム (土砂災害)	
第2学年						新潟県 防災教育 プログラム (津波)					新潟県 防災教育 プログラム (雪害)	
第3学年						新潟県 防災教育 プログラム (原子力災害)						

実践報告書

(1) 事業名	防災教室
---------	------

(2) 実践報告

実践内容及び児童生徒の様子	<p>(実施の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震によるまちの被害や家の中の被害と身の守り方について ・災害時の危険箇所について (学校内・登下校中) ・災害時の避難所運営について <p>(生徒の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生した瞬間に、身を守る行動をすることの難しさを知り、身を守るための方法を話し合いながら学んだ。 ・学校が避難所になった時の課題を知り、中学生ができることは何か具体的に学んだ。
成果と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○災害が起きた時に、自分の身を自分で守らなければいけないという災害への心構えを心に刻んだ。 ○東中学校が災害時の避難所になることを周知することができた。その上で、中学生が、避難してきた地域住人に対してできることを具体的に考えることができた。 <p>▲今年度の成果が来年度へと繋がるような防災教育のカリキュラムを設定する。</p>

実践の様子

第1回 防災教室



講師による地震の教育



話し合い活動「危険箇所はどこか」

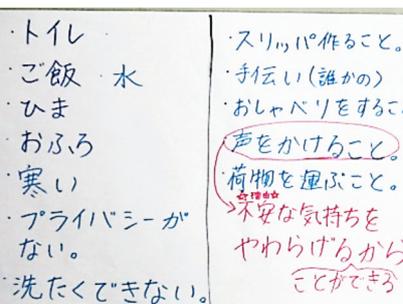


新聞紙スリッパの作成

第2回 防災教室



避難所運営について
プライバシーの確保



避難所生活で困ること (左)
中学生にできること (右)



プライバシーの確保
パーティション作り

新発田市立東中学校防災講座案

日程：令和元年 11 月 15 日（金）13：35～15：35（120 分 内休憩 10 分）

対象：全校生徒 204 名 会場：体育館

【ねらい】

- ・過去の災害時の避難所の実態から避難所の課題を知る。
- ・避難所で自分にできることを考える活動を通して、地域の一員としての自覚を高める。
- ・防災グッズづくりの体験から、地域や小学校と合同で防災学習を行う際の活動に、見通しを持つ。

【プログラム概要案】 120 分（前半 50 分 後半 60 分 休憩 10 分）

※グループ活動を想定 生徒は 4 名 1 グループ。縦割りでも可。編成は学校に一任します。

1. 防災講座（前半） 50 分

- ① 災害時の避難所の写真資料等を見せて、避難所の様子を知る。 (8 分)
 - ・新発田市の避難所運営方針を伝え、避難所は“避難者を含めて、学校・地域・行政が全員で協力し、運営をする場所、被災後の生活をみんなで乗り切る場所”であることを押さえる。
- ② グループワーク 1 (15 分)
 - 1) 足の踏み場ないほど満杯の避難所の様子の写真等を提示する。具体的な条件下で予想できる課題を考えさせ、ホワイトボードに書き出させる。
 - 2) 各写真から予想できる課題について、数グループから発表させる。
 - 3) 避難所で起こる実際の課題を被災地の避難所の写真等で紹介する。
- ③ グループワーク 2 (15 分)
 - ・様々な課題が発生する「災害時の避難所で、中学生にできること」をグループで考えさせ、ホワイトボードに書かせる。
 - ・書き出したことの中から、自分たちが「最も大切だと思うこと」を選ばせ、その「理由」を書かせる。
- ④ グループで考えた「災害時の避難所で中学生にできること」「最も大切だった理由」を数グループから発表させる。 (5 分)
- ⑤ 災害時の避難所で、実際に活躍していた小・中学生の姿や声を紹介し、中学生が大きな戦力になることを伝えてまとめる。 (7 分)

休憩 10 分

2. 防災講座（後半） 60 分

- ① 避難所生活の困りごとを解決する方法として、身近なものを活用した防災グッズづくりを体験させ、身近なものの工夫も大切な視点であることを押さえる。 (50 分)
 - 1) ダンボールパーテーション（プライバシー空間がない。）
 - 2) 紙食器（箱型・コップ）の 2 種類（コップがない。食器がない。）
- ※ 全体を 2 グループに分け、各コーナーを 25 分で体験し、交代する（移動時間含む）
- ※ その他、身近なもので作れる防災グッズを数点準備していきます。時間が余った際に紹介します。
- ② 振り返りワークシートを記入させる。 (10 分)

【準備品】

プロジェクター，スクリーン，延長コード，PC 置き用の机×1
筆記用具，ホワイトボード・マーカー（A3 用紙 1 枚・プロッキー1 本でも可）×グループ数分，
振り返りワークシート×生徒数分（データはこちらで作成します），
新聞紙 1 人 2 枚，ダンボール（2 グループで 3 箱），ダンボールカッターまたはカッター×グループ数，
アイラップ 1 人 1 枚

※段ボールは、あかたにの家がたくさんあります。

3 箱の内、1 箱のみカッターで切ります。切る分の段ボールのみ学校さんにご準備いただき、

2 箱×グループ数の段ボールはあかたにの家へ貸出可能か確認してみてください。

すべて学校さんでご準備いただくのでも構いません。

ふるさと未来

パソコン，プレゼンデータ，紹介用の身近なもので作れる防災グッズ数点

以上になります。

ご要望やご不明な点等ありましたら，ご連絡下さい。

NPO 法人ふるさと未来創造堂 中野

<p>新発田市立東中学校 防災学習</p> <p>地域の一員として 災害時の避難所を考える</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂 コーディネーター 中野 明子・中野 雅樹</p>	<p>大阪北部地震・北海道胆振東部地震（平成30年）</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>平成30年西日本豪雨</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>令和元年山形県沖地震</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>令和元年台風15号</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p> <p>避難所は、 赤ちゃんから お年寄りまで、 みんなが生活する する場所</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>令和元年台風19号</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>避難所</p>	<p>発令する避難情報</p> <p>【警戒レベル】で避難のタイミングをお知らせします。</p> <p>2019年の出水期（9月ごろ）より、 【警戒レベル】を用いた 避難情報が発令されます。 市町村から【警戒レベル①】が 発令された地域にお住まいの方は、 速やかに避難してください。</p> <p>警戒レベル 1 心構えを 高める （災害が発生前）</p> <p>警戒レベル 2 避難行動の 確認 （災害が発生前）</p> <p>警戒レベル 3 高齢者等 避難 （災害が発生前）</p> <p>警戒レベル 4 全員避難！ 安全な場所へ 避難 （災害が発生中）</p> <p>【警戒レベル①】（避難が発生前）は特に注意が生じている状況です。</p> <p>9月1日 内閣府防災UP NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>令和元年台風19号</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>

<p>避難所で起こる様々な問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難スペースのかたより ・ コミュニケーション不足 ・ 生きるために最低限必要なものもない ・ 体調不良、ケガ人、高齢者の対応 ・ いびき、せき、歯ざしり、寝言、泣き声 ・ プライバシーの欠如 ・ バラバラな生活スタイル ・ トイレの水が流れない ・ 役割分担の偏り 等々 <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>不安でいっぱい。情報がほしい。</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>物資置き場と在庫管理も大忙し。 液いつ届くのかわがわがらないうちも。</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>個別に悩みを相談したい人もいる。</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>移動できない。。。 昼間から寝て時間を過ごす人もいる。</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>仮設トイレは屋外。 トイレの近い高齢者の中には、 迷惑になることを心配して 軒先で生活する人も・・・</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>
<p>「トイレに行くのが大変そうなお年寄りを見て思いついた。」 トイレの介助を手伝う、小・中学生。</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>大きな声にも小さな声にも 耳をかたむける。 人は1人では生きられない。 「人」を救うのは「人」</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>	<p>一人一人の「想像力」と 人の命を救う「行動力」</p> <p>みなが安心して生活できる避難所 にするために中学生にできること</p> <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂</p>

その場にあるものを工夫することで、
解決できることもある。

食料等が入っていたダンボールでも
避難所生活の改善が可能！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

前回作った新聞紙スリッパ！

避難所で、
人と人が交流するきっかけや
小さな子どもたちの遊びにも！

ふるさと未来創造堂

各コーナーの周り方と注意事項

休憩したら、それぞれの体験前に整列

- ① 段ボールパーテーション作り
- ② 新聞紙で紙食器作り

Aグループ ① → ②

Bグループ ② → ①

体験時間は各25分 活動は全てグループで体験

ふるさと未来創造堂

「温かい。身体が痛くない。」
「久しぶりに良く寝られた。」

NPO法人
ふるさと未来創造堂

人と地域にかかわれる中学生は、

多くの大人を笑顔にできる。

心を支え、救える大切な存在。

だから、勇気を持って行動を！

NPO法人
ふるさと未来創造堂

昼間でもおねて時間をすごす人もいます。
運動をしないと、病気になるかもしれません。。。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

その場にあるものも工夫して、
様々な困難を乗り越えよう。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

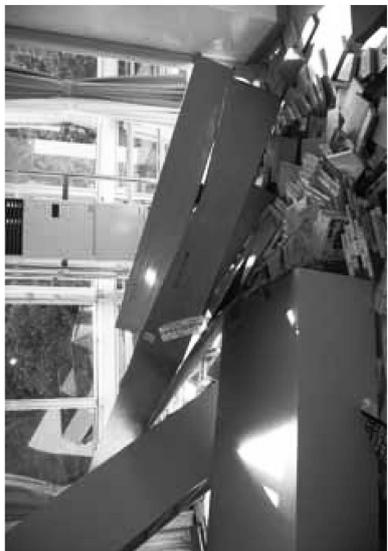
災害発生！ その時、どう行動するか



常務理事 中野 雅嗣

地震のときは「もの」が
・落ちてこない
・倒れてこない
・移動してこない

3つの「ない場所」で、
自分の命を守ろう！



出典：新潟県防災教育プログラム推進協議会【地...資料2017】学校の崩壊と人的被害

NPO法人
ふるさと未来創造堂

15年前の10月23日
“新潟県中越地震”発生！

“震度7”の非常に強いゆれの地震でした。

震度7の映像をためよう。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

出典：新潟県防災教育PG協議会事務局
【地...資料2021】地しんどのときの家や車らのようす



ふるさと未来創造堂

出典：新潟県防災教育PG協議会事務局
【地...資料2023】地しんの勢との家との崩りの様子



くずれたガラスやかへ

NPO法人
ふるさと未来創造堂

コンビニの中の様子です。
地震の強いゆれで、

- ① 落ちたものは？
- ② 倒れたものは？
- ③ 移動したものは？

NPO法人
ふるさと未来創造堂



ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育PG協議会事務局

ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育PC協議会資料編

NPO法人
ふるさと未来創造堂

**地震はいつ起こるか、
だれも予想できない。**

NPO法人
ふるさと未来創造堂



**普段生活している場所では
どのような危険があるだろう？**

ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育PC協議会資料編

NPO法人
ふるさと未来創造堂



ふるさと未来創造堂

プリントを使ってグループ活動

課題

**写真の場所にいるときに、強いゆれの
地震が起こったら、どのように行動して、
自分の命を守りますか？**

- ① 危険な場所に“○”をつけ、危険な理由を書く。
- ② どのように行動して自分の命を守る？
1) 移動できる強さのゆれなら？
2) 立っていられない程のゆれなら？

ふるさと未来創造堂

出典：新潟県防災教育PC協議会資料編
【地_資料203】地しんのあとの家と街の様子



信号が消えている

NPO法人
ふるさと未来創造堂



NPO法人
ふるさと未来創造堂



NPO法人
ふるさと未来創造堂

出典：新潟県防災教育PC協議会資料
【熊鷹資料2013】地しんあとの家と廻りの様子



NPO法人
ふるさと未来創造堂

地震は、いつどこで起きるかわからない・・・。
無傷で済まないこともある・・・。

→ その瞬間、自分のいのちを守る
最善の行動ができるように

日頃から、危険か所の確認や
その場所での避難行動を覚えておく！

ふるさと未来創造堂

フライシャーが全くなし。

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育PC協議会資料

ふるさと未来創造堂

激しいゆれの地震・・・。

ゆれが収まった後は・・・。



余震に注意して、避難所等へ避難する。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

移動できないうちが年寄り。
昼間から寝て時間を過す。

NPO法人
ふるさと未来創造堂



出典：新潟県防災教育PC協議会資料

ふるさと未来創造堂

避難所は、
赤ちやんから
お年よりまで、
みんななで生活を
する場所です。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

けが人や病気の人が
一人で動けない人もいる。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

<p>水道が止まってしまい、飲み水がない。 トイレの水も流せない。</p>	<p>避難所とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 不幸な死者を出さないよう、みなで協力して支え合う場所 生活の再建に向けて、“心”と“体”の準備をする場所 	<p>平成23年3月12日</p> <p>雪が降るほど寒い。避難している人の中には、スリッパを履いていない人も……</p>
<p>寒さだけでなく、衛生面にも課題が……</p>	<p>新聞紙スリッパづくりを体験します。</p>	<p>移動できないうち高齢者。昼間から寝て時間を過ごさず。</p>
<p>仮設トイレは屋外。トイレの近い高齢者の中には、迷惑になることを心配して軒先で生活する人も……</p>	<p>「トイレに行くのが大変そうなお年寄りを見て思いついた。」 トイレの介助を手伝う、小・中学生。</p>	<p>「今後どうなるのか不安だが、僕らのような若者が頑張らないといけない」 避難所を支える中学生 「生まれ育った阿蘇のため」</p>

NPO法人
ふるさと未来創造堂

中学生にできることは“無限大”
地域の宝であり、大きな戦力！

“勇氣”を出して行動を！

避難している小・中学生

→言われたわけではなく、自分たち
できることを見つけて取り組んでいた

家族・地域を助けるためにも、
絶対に、自分の命を自分で守れ！

ふさと未来創造堂

ふさと未来創造堂